

# 歴史的思考力を育成する授業づくり

## ー 探究的アプローチを用いた授業実践 ー

学籍番号 219315

氏名 彦坂丈夫

主指導教員 糸井川孝之

副指導教員 櫻澤誠

### 1. 問題意識

平成 30 年改訂の学習指導要領では、歴史を学ぶ本質的な意義として、「歴史ならではの見方・考え方」が整理されており、これまで以上に高等学校での歴史的思考力の育成が求められている。また、筆者は実習校での総合的な学習の時間に行われる探究学習に参加した経験から、生徒の探究活動へのモチベーションの低下や教科の授業で探究学習で学んだことが生かされていないことに課題を感じていた。以上の問題意識の下、本研究では、佐藤(2021)の「学習者が問いに答える活動を通して、知的創造を行う学習活動」という探究の定義を参照し、生徒が日本史の授業の中で、問いに答える活動を含む探究的なアプローチを用いた授業開発を行った。

### 2. 本研究が育成を目指す歴史的思考力

歴史的思考力に関する先行研究は多数存在するが、本研究では、永松(2017)に示されている歴史的思考力を育成すべき歴史的思考力として、研究を行った。また、池尻(2012)に示されている歴史的思考力の分類とその育成方法を参照し、授業内の課題を作成することで、生徒の歴史的思考力の育成を図った。

### 3. 基本学校実習での授業実践

基本学校実習では、ダン・ロスステインとルース・サンタナ(2015)の「問いづくり」を参考に、日本史Aの授業で、2時間の探究学習を含む授業を行った。1時間目はグループで「問いづくり」を行わせ、探究活動を行う問いを作成させた。その後、グループでchromebookを用いて共有させ、発表スライドの作成を行わせた。2時間目には生徒が作成したスライドの発表を行い、自己評価と相互評価の振り返りを行った。

基本学校実習の課題として、探究学習を行う時間を十分に確保することができなかったこと、個人の歴史的思考力の伸長を測ることができなかったこと、探究活動を含めた学習活動のすべての行程が「学習者中心アプローチ」になっていた点があげられる。

## 4. 発展課題実習での授業実践

発展課題実習では、基本学校実習の課題を以下のように改善し、授業実践を行った。まず、「問い」の内容についてである。基本学校実習では、テーマを筆者が設定し、生徒に選ばせ、そこから「問い」を作らせるという形をとったが、バートンとレヴスティクの論を参照し、生徒が「今日的重要性」を持って探究活動を行うことができるよう改善した。また、個人の思考の変容を測ることができる評価方法として、生徒の思考や認知の過程を把握することができる堀(2019)の「OPPA」を採用した。

授業は基本学校実習での授業実践と同じく、日本史Aの授業で行い、計3時間の授業実践を行った。単元を貫く本質的な問いとして、「大衆とは何か？」を設定し、授業内の教師からの発問やワークを通して生徒の歴史的思考力の育成を図った。

授業の結果の分析方法として、KHCoderを採用し、OPPシートの「学習前」と「学習後」の欄の記述の変容を比較したり、峯(2021)を参考に生徒の思考を示す語を抽出して分析することで、生徒の思考力の伸びをエビデンスをもって示すことを試みた。また、生徒のワークについてルーブリック評価を行い、生徒の記述の分析を行った。

## 5. 本研究の成果と課題

本研究の成果は次の2点にまとめられる。

第一に、歴史総合、日本史探究に向けて、生徒が問いを自分で作って探究活動を行い、教師からの発問を通して自分の考えを変容させていく授業構成の可能性を示すことができたことである。

第二に、OPPAを用いて生徒の考えの変容を可視化し、それをKHCoderで量的に分析したり、特定の語に注目したりして、生徒がどのように授業を振り返り、どのように思考を変容させたのかについて分析し、エビデンスをもって生徒の思考力の変容を示すことができたことがあげられる。この点は生徒の思考の変容を可視化することで、教師の授業改善にもつなげることができると考えている。

また、本研究の課題は次の3点にまとめられる。

第一に、生徒に歴史的思考を十分に身に着けさせることができなかったのではないかという点である。生徒には歴史的思考の意義付けを行うことが十分にできなかったことが課題としてあげられる。

第二に、教師にとっての重要性をどのように生徒に伝えていくかという点である。発展課題実習では、「今日的重要性」を持った問いを設定したが、その重要性が生徒に伝わらなければ、生徒にとって意味のある学習にはならない。この点について、生徒に学習をどのように意味づけていくかという点は課題だと考える。

第三に、学習観の問題である。「OPPA」は構成主義の学習観に立っているが、構成主義の歴史学習には渡部(2019)のような批判が考えられる。この点を乗り越えるものにはならなかったことも課題であり、これらの点を今後の改善点としたい。